WASON
HQ
1104
J74

驛遞局認可

明治十九年九月廿五日發行

女學雜誌

毎月三回發兌
一册正價五錢
一ヶ月十五錢

第三十六號

東京 女學雜誌社

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

The Women's Magazine

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 36.

第參拾六號

EDITORIAL: Woman and Christianity.

LEADING ARTICLE: Our sister in Japan, by Mrs. Mary C. Leavitt; A word to man, by Mrs. T. Nakashima.

MISCELANIES: Male's kindness; Home department.

CRITICISM: Professor Toyama's "Engeki kairyō Ron Shikō." (An Individual View on the Reformation of the Japanese stage); Mr. Iwayama's "Shōni Kenjen Shiyō" (Outline of the Children's hygine).

BIOGRAPHIES: Life of Baikō-Joshi: No. XVI; Wife of Shibata Katsuiye.

CORRESPONDENCES.

GENERAL NEWS.

ADVERTISMENT.

●社説　女子と耶蘇教

●叢話　親切と云ふ事○いへのとも

●批評　外山正一君の演劇改良論私考○岩山文吉君の小兒健全示要

●論説　日本の姉妹に告ぐ(レビット夫人)○男子の注意を望む(中島とし子)

●佳傳　梅香女史の傳(第十六回)○柴田勝家夫婦の事

●寄書　美術及其要領(服部甲子造)

●新報　十則

●廣告

●珊瑚の玉

○女の長處　ハマトン曰く女の性質は相合して其の勸説力をつよむると云ふべし先づ其弱きと其あれれにして子供らしく柔和なると皆かの力を助くろの才智うすきと其涙もろきと其女たると其聲と樣姿との人を迷わすと皆なかの力を助く最後に世界の大人をば全く倒し得たるかの美麗と云ふものも時としてかの力を大に助るとあり

○女の隱險　猫ハ家畜中の温柔なるものなり然れども其性質を撿すれバ動物中此の如く隱險あるはあらずと云ふ女また然るかスペインにて異教者を燒きたるとき終に至るまで靜かに見物したるは貴婦人あり牛獅子などの戰を好んで觀るは婦人ありアウストリアの皇后は狐を苦しむるを樂しみとし羅馬の女ハ魚を皿に入れて苦死せしむるを宴會の饗應としたり

○女の大家　和文の八大家は女あり曰く紫式部、清少納言、伊勢、和泉式部、赤染右衛門、大貳三位、右近大將道綱の母、安嘉門院の四條

女學雜誌　第參拾六號　明治十九年九月廿五日

●社說

○女子と耶蘇教

吾人曾て論ず今日は恰も是れ女教維新の時なりと（女學雜誌第十一號を參看すべし）之を譬ふれば日西の山に沒して物の黑白を知らず有明の月すでに隱れて天地の陰〻たるが如し月東の山に登り旭日東方にもる丶なくば人間路を行くに其方向を辨ずると甚難し今ま從來の女教廢れて新なる教を要するの景色は猶ほ此の如き歟。抑も孔子の教は明治時代に擯けられて今之を主張するもの殆んどあるなし其道は果して不可なるもの歟否や固より數多の議論を要するとなれども今の女を輕蔑して男の下婢の如くする教の不可なるは火を睹るよりも尚ほ明白なり啻に其不可なるとの明白なるにあらず若し斯る教を一方に主張せば今日何如程に女學を振ひ起し女權を張り伸さんとするもこれ火を燃して水をそ丶ぐが如し其盡力は全く無効とならんとす故に孔子の女教は其實たとひ不可なるものにあらずとするも尚ほ今日の時勢には全く適應せざるものと云ふべしされバ當今の女學校にて凡そ眞正の課程を設けたらんものには何如なる所にも女大學女論語を教ゆるはあらずまた儒者の講釋よて女の心得を教ゆる場所もあらざる也。然るに人間には必ず一の教を要するものあるに況して女の如く心弱きものは是非とも其心を定むべき道ありて之を履み行くにあらずんば何如に理化學を修め英和の學に達するとも到底之を善用すること難きもの也。故にかく孔子の教すたれて月も日も西にかくれたらん今日の時世には何物か之に代るべき一の教なかるべからず然らずんバ今の女子の路を行くは猶ほ盲人が暗路をたどるに均しと云ふべきなり

然らば何の教を以て孔子の教に代んかと云ふに吾人ハ夙に其耶蘇教の外にあらざるとを信ずるものあり然るに耶蘇と云へる名目は從來甚しき嫌惡を蒙りたれバたとひ其何如なるものなるやを知らざるもたゞ其聲をきゝて直ちに顏を反くるもの甚だ多し但だ近來ハ漸々にかゝる弊を滅じたりとハ云へ未だ其教の何たるを知らずして彼此と云ふもの尚尠からず此際その教のあらましを說明して女子と耶蘇教との關係に甚だ大切なるものあるを示さん此れ實に婦女諸子の身にとりて切要なるのみにあらず娘子を教育し玉ふ親々方の亦今尤も研窮し玉ふべき問題なるべし

今日歐米にて女權の盛んなる國ハ即ち耶蘇敎の流行する國々なり此國々のうちにも女權の尤も盛んなる米國ハ即ち耶蘇敎の尤も流行する所なり又かゝる國々にて何故にかく女權盛んなりやと云へバ其元因全く耶蘇敎の行ハるゝが故なるを知るべし。其昔をとへバ西洋にもまた女ハ常に男の輕蔑をうけたりペルシヤにては多妻さかんに行ハれ(ヘロドタス)埃及にてハ女が勞力し(ダイヲドラス)希臘にてハ女はたゞ男に屬するものとなり(テレマーク)ソクラットの如きも日々その身の奴隷にあらず亦女にあらざりしことを神々に感謝し羅馬にてハ夫に妻を支配すべき全權ありと云ひ(ロムラス)或は女を無智の動物と云ひ(カトー)或は酒を味ひたりとて妻を殺し毫も愧ぢざるものあり(メチシアス)きたとひ日耳蔓人種ハ昔より女を尊びたりと云ふとも子供を生む程の女を殺せば罰金六弗若き娘を殺さバ罰金二弗との法律を其中ニ定めありしを思へバ當時彼等が女を尊敬したるの有樣及び其尊敬のたゞ子を生むが故にありしとなど思得らるゝなり要するに男ハ數多の妻を持ち得たり男は妻を賣買し得たり妻を生殺するの權は全く男の手ゝありたり此際女權など云へるハ夢にだもきかざりしとなるべし。然るに耶蘇ハ強きものをして弱きを憫ませ富める者をして貧きを惠ませ飽たるものをして餓たるに頒たせ暖かなるものをして寒きに衣させたまへり耶蘇の眼中には猶太人もなければ希臘人もなし(西洋人もなければ日本人もなし)自由ある人もなければ束縛の人もなし男もなければ女もあらず凡そ人間と云ふものハ皆一樣に之を愛して各其所を得させ玉ハんとしたり故に世に君臣あり父子あり夫婦兄弟ありと雖も是よりして共に其格を守り各侵す所なく然も心は愛にみちてともゞに滿足することなりたるなり。されバ耶蘇の敎ハかの女を內心如夜叉と云ふものと異なり亦女は養ひがたし三從すべしなど云へるものと異り女をあげて男と同等の人類たる地位を得させ一夫一婦の制を初めて明になしたるなり古來此敎によりて女權の伸張したるも亦た今日此敎の流行する所に女權の盛んなるも皆かゝる理由あるが故なり

然れ共耶蘇敎の女子に於けるや啻にその權を盛んにするのみにあらず此は反てたゞ其變を常に反へしたる迄なり耶蘇敎の常に女子に於ける關係は之よりも尙ほ大切なるもの甚だ多し今まその大槪を擧れバ此道を信じて初て女の心得定るべし男子との交際淸潔となるべし夫婦の間愛深うあるべし一家の親睦わつかるべし子供の敎育完きを得べしそを何故と云ふに

一〇　耶蘇教に於て女の道とするハ大抵左の如し
婦女ハ恥を知りよく愼みて宜に合ふ衣(行の事)にて自ら飾るべし髪をあみ又は金や眞珠や價高き衣などを以て飾とすべからずたゞ善行を以て飾とせんことを願ふ神を敬ふ女はかくすべきことあり婦女は何事にも順ひて靜かに道を學ぶべし女ハ心の内の人すなはち壞ることなき柔和恬靜なる靈を以て飾とすべし

されバ此教に於てハ女の男らしきとは固より深く之を禁ず但だ優にやさしく靜かにして温和しくよく家を守りて夫を助け子を育て經濟をよくすると又は女の慈善なる事業に盡力し世の不徳をきよむるとに力を盡すなど世の爲すべきわざの中の最良なるものとせり故に此教に於て女の鑑とするかのマーリー(Mary.)マグダーレン(Magdalene.)を初としてイウニス(Eunice.)リヂア(Lydia.)プライシルラ(Priscilla.)の如き又はモニカ(Monica.)ラッセル(Russel.)ハンナ、モア(Hanna More.)フライ(Fry.)ナイチンゲール(Nightingale.)の如きハ皆なかゝる女徳を有ちたるものなり我國の人此教を信ずる西洋の女を見其男らしきに驚きて或は此言を信ぜずと雖もこれその見る所の尚ほ低きなり西洋の女を見るには其娘なるか妻なるかをよく判別せざる可らず抑もその娘たり妻たるに依りて此に教ゆる女たるの道に相違なきは勿論なれども素と娘ハ修業最中にて言はゞ子供なり西洋の女ハ人に嫁するまでハ大抵子供らしき考をもちて最と淡泊なれバ其子供らしきよりして遂に男らしく見ゆるは少さか恕する所なかる可らず故に一旦人に嫁するときは其優にして温和なる靜かにして愛深く見ゆるは恰もよくかの教の言を身にあらはしたるものと見るべきなりかく女の心得定りたる上は何如に學文するとも人見よがしの高慢もなかるべし聲音鐘の如く肩砥石の如くあゆみさばけて男ぶりたる書生風もなかるべし女に學文さすれバ生意氣になるとの誹りも無用となり女生徒が家に歸りて女らしき親切なしと怨まるゝ小言もあらざるべし蓋し耶蘇教ハ女に一箇の人類たる見識をもたせ毫も讓るなきの氣象を懷かするうちに斯く靜かに且つ温和にして女らしくあらするやうに教ゆるものなり玆に於てか女の心得初て定ると云ふべし

二〇　男女交際の說は近時甚だ盛んなれども耶蘇教の道を信じたるのちに非んバ其交際ハ決して親密と淸潔とを兼ね備ると能はず反て不測の害之より生出せんとを恐るゝなり耶蘇教に於てハ天の定に隨ひて夫婦となれるものにあらずして相合

ふを姦淫と云ひこの姦淫を禁ずること甚だ嚴なり故に其敎の中にわれ古に言ふ姦淫を禁ずるのみにあらず凡そ女を見て異心あるものは其中心すでに姦淫したるなり若し右の眼なんぢを姦淫の罪に陷さば抉出して之を棄て右の手なんぢを其罪に陷さば斷去りて之を棄てよ五肢の一を失ふとも全身を罪惡の罰に投入らるゝよりは宜しからんとまでに云へる樣の事もあるあり。此の如く姦淫の罪たることを思ひ神明昭々として吾等を鑑み玉ふことを思ひ又女をけがすは貴き一箇の人類を墮落せしむるものなりと思へばこそ姦淫の行姦淫の氣は此敎を信ずるものゝ勉めて除去せんとする所以なり男女ともにかゝる覺悟あり又女にもわれ亦一箇の人類にして男子の辱めを受くべきものにあらずと思ふ念の固ければこそ男女何如に親密なる交際を爲すともその間に淸潔の德を保つことを得るもの也。此を以て國につきて言はゞ耶蘇敎の眞に行はるゝの厚薄は男女の交際を淸潔にするの厚薄なり人につきて言はゞ此敎を信ずるの熱心不熱心はかの交際上の淸潔なると否とを現はすものなり故に東洋諸國及び野蠻人民の姦淫に溺るゝは言ふを待たずかの羅士亞の如き獨逸の如き佛蘭西の如き眞正に此敎の行なはるゝなき國々には眞正の淸潔なく英吉利の如く此敎の大に行なはるゝの地も尙ほ更に此敎の眞實に行はるゝ亞米利加合衆國に比較するときは男女交際上の淸潔遙に及ばざる所あるなり又今ま耶蘇敎を信ぜざる男女相交り或は共に書を讀み或は共に遊びなば其結果何如ん我國には之よりかゝる事あらんとする程なれば從來未だその結果を見るの經驗あらずとは云へ男女もし前に云ふ所の覺悟なくして自由に相交際せば甚だしき不都合の起らんこと必然なり若し然らずと云はゞこれ未だ眞の親密なる交際を爲す程の地に至らざりしものと見るべし米國に行はるゝ程に親密なる交際を爲して而も男女の間に弊なきに至らんとは到底望む可らざることなるべし而して此望を得さするはたゞ耶蘇敎によりて前に云ふ所の覺悟を得るに在るなり玆に至りて男女間の交際はじめて淸潔なるものとなるべし

三。耶蘇敎に於て夫婦間の道とするは大抵左の如し

婦なる者よ主耶蘇に服ふ如く己の夫に服ふべし蓋キリスト(耶蘇の事)敎會の首なる如く夫は婦の首なればなりキリストは身の救ひ主なり然ば敎會のキリストに服ふ如く婦も凡てのこと夫に服ふべし夫なるものよキリストの敎會を愛し其爲に己を捨て玉ひし如く爾曹の婦を愛すべし夫も其婦を

己の身となして愛すべし婦を愛する者は己を愛するなり己の身を惡む者は曾てあることなし之を保り養ふとキリストの敎會を保り養ふが如くすべし人は父と母を離れ其婦に配ひ二のもの一躰となるべし爾曹も各々その婦を己の身となして愛すべし婦も夫を敬ふべし

夫たるものよ爾曹も妻を遇ふこと弱き器の如くし理に循ひて之と同もに居りこれを敬ふこと生命の恩を嗣ぐものゝ如くすべし

凡そ姦淫の故ならで其婦を出すものは之に姦淫なさしむるなり又かくして出されたる婦を娶るものは亦姦淫を行ふにあたるものなり

されば此道に於ては夫の妻を愛すると妻の夫を敬し且つ愛するとをつよく敎るものあり夫たり婦たるの人をみだりにして結婚するをかたく禁ずるものなり夫婦の一方に於て姦淫の罪を侵すにあらずば離緣す可らずと敎ゆるものあり此を以て夫婦の愛日々に深ふなりて一躰同身の交これより出ることとなり現今吾國夫婦の間柄の如きは慨歎にたへざるもの甚だ多し男女もと相知らずして結婚し未だ久しからずして離緣する如きは事の甚だ容易なるものあり妻は夫の家に辛棒すると思ひ夫は妻を足手まとひと見る之を以て夫の眼中に輕蔑の氣あり妻の心中に恐怖の念あり一方にはいよ／＼輕んずれば一方にはいよ／＼恐れたゞ其離緣されんことを憂ふ如此して豈に眞正の愛あらんや連木しきりに運動して磨鉢微塵の如く破れんこと往々にして之れ有りそのやゝ高尚なるものと雖も朝夕小言にみちみちて愚者との叱聲たゆるひまなし或は家に風ふかばと歎かせて夜半に遊び行く夫あれば燃る思に湯をわたゝむる妻もあるなり之を西洋の夫婦が一身同躰となりて出入起臥に苦樂を共にし一び合ひしものは復た離る可らずと定めて相愛し相忍ぶの和樂に比ぶれば其懸隔せると何如にぞや或は西洋には女が男を下に見て妻は夫を追使ふの風ありと云ひかの國に行はるゝ夫婦の交を否むものありこれ一應は其理ある惑にして吾人も甚だ說わるとあれども必竟はたゞ其短所を見て長所を採らざるの誚りあるべし今や夫婦の關係を西洋人の如く相ひ和樂するものと爲さんと欲せば先づその如此く和樂するの原因を採らざる可らず故に吾國の男子にして若し西洋の夫となり吾國の女にして亦た此敎によりたる道を守らんか玆に至りて夫婦の間初て愛深ふなるべし(未完)

○此說終末に至りてのち讀者の批評あらんことを望む

● 叢話

○親切と云ふ事

日本の男女が其つまを撰ぶは甚だ麁相なり之を西洋人の注意ふかきに較ぶればなか／＼に同日の談にあらず今に至るも尙ほ婚姻の當夜初めて顔を見るなどの奇怪なきにあらざれどもこれをバ人生の一大事とハ誰れも覺悟することなるが故にまた各その力に隨て撰ぶ所なきにはあらず諺にも蓼を食ふ虫は尙ほ蓼の辛きを好むと云へり人々にすき／＼の撰び方あらんは勿論なれども茲に吾國當今の男女が其つまを定る最多の目安をあぐれバまことに歎ずべきことなれども斯く申さゞるを得ず曰く男は女の美を欲し女は男の親切なるを望むと。但し當今なほ不完全なる時代とは云へ中には秀女の才を慕ふて其容を思ハざるもの、顔は婚后二三年の樂なりとあきらめて始末よき女をのぞむもの固より之れあり又た俊秀の才を愛して一生を托しその他を顧みざる賢女あれば不男を恐れずして其働きあるを頼みとする當世の娘もあり多きがうちにさま／＼の上下あらんは言ふまでもなしとハ云へ數の多數について平均したるものは吾人が前言の恰も實を穿てることを承知すべき也然るに一生の妻を定るとき只だその衰へ易き紅顔を頼みとするは時の間の朝顔を床の上にすえて生涯のながめとするに均し盆栽の松をむかしながらの友として朝夕樂しむものと賢愚はたして何如んまことに果敢なき心得と云ふべし然れど男が女の美をのみ撰ぶの不可なる如く女がたゞ親切を目安として夫を定るは尙ほ足らざる所ありと云ふべし

抑も女は天性親切なるものなり何如ほどに活潑なる女子も之を男子にくらぶれハ溶くる如き心地の存すると古今東西なべて然り故に古人は之を一種の女德となし女にすゝむるに優貞を以てしまた女らしくあれとのみを修身の鑑となさせたり西洋にても亦た古來その說ありセキスピア、スカット、バイロンの如く人情を穿てるものは皆よく女の親切と云へるを詠したり又たレーヤールドが瑞典、ラプランド、羅士亞、土留其とさまゞに吟行して變らぬものは女の親切なりと發明したる皆よく實際を知れる者と云ふべし。女には天性かゝる質あればまた親切を以て己を待するものを愛して之に頼らんとすると固より當然の事なり必らずしも之を不可なりと云ふ可らず然れど吾國の如く久しく壓制束縛を蒙りたる女子がたゞ親切々々とのみを頼みとするに至りては少しく戒しむべきの注意なるべし。そを何ぞと云ふに凡そ貧乏したるときは金の貴きを

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

知り卑賤に居たるときは人の惠を感ずると人の通情なり女が多年男子の束縛をうけて代々たゝ〳〵壓制をかうむりたる間には然らずバ左程にも感ずまじき少さかの親切をも最と有がたしと思ふは當然なりかゝる習慣代々につたはりて親切を喜ぶと云ふ女の性質をいよ〳〵强くし、今まなほ壓制の下にある女たちハ今日自分の身の上にとりてまた〳〵此感じをつよくするなり故に男の英雄なる慕ハしからぬにあらず男の秀才なる望ましからぬにあらずと雖もかゝる有樣に居て代々の習慣を引受たる女にとりてハたゞかの親切と云へる者のみぞ其の身にとりて最上の幸なるべし故に當今の女が心中に愛と云へる念を惹起したる有樣を觀察せよ利口なり發明なり評判高しなどの件々ハ皆な彼をして其心に尊貴とする念を起さしむべし然れど此の尊貴と云へる念を一轉して愛と云へる人情を起さするものは即ち彼の方の親切と云へる一個の現象なるや明かなり金に迷ハず權威に懼れざるもたゞ其の親切にほだされてトハ狂訓亭の翁がつねの口調として女の情をあらハしたるものなり此人情は今の明治時代にも尙ほ歷々として存す吾人が玆に令孃諸子の注意をひくは即ち此の故なり一面識の親切言葉に其人を懷ひ途上の親切ぶりに之を忘れざるなど昔の小說か今の下等社會などに多き樣は固より諸子になかるべき者なり然れど諸子が其人を撰まんには其身代々の習慣をうけて親切を買ひ過すの弊ありと心得試驗の科目中に尙ほその他の目安をも加へ玉はゞ恐らく誤なかるべし

さればとて吾人ハ女が親切を愛するを不可とするにあらずたゞ暴りに之を愛して親切ならぬを然なりと思ひ誤り玉ハんを恐るゝなり故にもし左の條々をあげて親切を試るの心得となし玉ハゞ無膓男子が冠れる假面を見あらハし玉ふこと容易なるべし

親切なる男あらバ先づ其人當時の有樣と自分當時の事情とを考へ比較すべし

自分に親切なる男あらバ其人が他人に對するとき特に朋友に對するときは左程に親切なりや否やを吟味すべし又尤も大切なるは彼人が其の家族ことに其姉妹に對してのもてなし何如なるやをよく〳〵吟味すべし

他人に對して不親切なり家族に對してもてなし宜しからざるが自分にのみ親切ならバ此親切は僞なり僞ならずとも永く續くべき親切にあらずと知るべし

度々面會して親しく交れる人の親切は暫し別れたる間の模

様によりて吟味すべし
當然の事（愛を思ひやると云ひ、喜を同慶ありと云ふ類もと然るべき筈の事）を言ふ言はぬによりて親切の有無は分らぬものと知るべし但し我國當今の人情にてはかゝることを特更に言はぬ方が反つて親切ふかきものなり
此外さま〴〵あれども玆には先づ其大概を擧る已にて止べし

○いへのとも

前號に掲げたる問の答は次號に讓る且つ從來家政心覺と題して説述したるは此後當題の下に合せ載すべし尤もかの問答は別に問又は答への部として此等の心覺と分つべきなり

果物又はジヤム類の品に生ずる黴を防ぐにはパラフヒンと云ふ藥少し許りを溶きて上にかくれば充分なり此藥は冷めたるとき固くかたまれども食用するとき之を剝ぎ取れば少しも害とならず

馬鈴薯にて菓子を造らんにはよく碎きたる薯の粉コツプ二杯に付牛酪を上は乳にてときたるもの食匕三杯を加へ又鷄卵をよくまぜ合たるもの二箇分上乳又は乳汁コツプ一杯を加へ之を鉢又は深き皿に入れてあつき鍋の上に置くべし

牛肉ソツプを手輕に製するには肉を細かに刻み鍋に入れて水をみたし汁の肉より全く出るまで一時半程も煎つめ馬鈴薯を少し斗り入れて程好きころ取出し細かに肉を切り鹽及び胡椒をふりかけ五分間すぎて下し皿或は鉢に盛りて出すべし

蜂蜜は甚だ効能多き者なれども人々いまだ多く之を用ひず抑も小供の患ふる口中の病などは蜜をもて療し得ると甚だ容易なり又た蜜に粉をまぜて軟膏となせば腫物を治する最良の藥となるべし又之を服藥せば効能更に大なり咳嗽、寒冒、カタール及咽喉焮衝またはヂプテリアの初めなどは皆な之を服して療ゆべしすべて口中、胸、呼吸器などの病にもちひて効能あらざるなし若し十五分乃至二十分又は三十分ごとに之を服用せばカタール、肺勞、胃弱などに効能の著しきと驚くべしと云へり故に子供を育つる母親はよく之を心得平常用意しおきて時々用ゆべし効能もなき砂糖を用ゆるよりは遙かに宜しきとなり

西洋の婦人はいろ〳〵の仕事を爲して自ら利益をとるうちにも蜂蜜をかひて蜜をとるは甚だ面白くまた得多きゆえに之を職業とするもの多し我國にても紀伊などに至れば女が之を仕事にすれども其他にて之を試るは多からざる如し然る

に此は左程に六かしき事にあらざる上に前に云ふ程の効能あるものなれバ婦人がたは慰みがてら蜜蜂をやしなひて蜜をとり玉ふべし其家に用ゆる丈を製し玉ふとも大なる樂あらん

蜜蜂の説

蜜蜂ハ蜜を作り蠟を産する虫なれバ安藝、周防、長門、日向、薩摩、筑前、石見、出雲、伊勢、紀伊、信濃、佐渡、の國々にて多く飼ひ數多の利益をとることあり

野山の大木に巣を營ミ蜜を蓄る蜜蜂あり樵夫この蜜をとりて山蜜と名く上品なれども賣口あしゝこの蜜蜂を家に運れ來りて箱の内に養ひ採りたる蜜を家蜜と云ふ是れ通常云ふ所の蜂蜜なり

蜂をかふべき箱は處によりていろ〳〵あり雲州にてハ繼箱とて下側に穴をあけ蜂の出入に供へたる四角の箱をつみ重ね紀州にてハ蜂の堂と名け長き箱に家根をつけ横に穴をあくるあり又野州にてハ樽を薦にて卷き軒下へ横に吊るもあり

蜜を採るハ大抵夏至の後あれども所によりてハ秋の彼岸前後にもとるとあり先づ箱の後の戸を叩き蜂前面に集るとき後の戸をあけ小刀にて巣を切るべし一時に前後を切らざれバ温和にしてさハぐことあし

切取りたる巣は布を敷たる篩の中に入れ温かき場所ゑ置くときハ蜜自ら流れ出で其色黄茶にして飴の如し之をタレ蜜と云ひて最上品とす其殘りハ布の袋に入れ搾木にて搾れバまた蜜を得べし之を搾り蜜と云ひ下品とす

斯く搾りたる滓ハ再び布袋に入れ釜の中にて煮るときハ湯の沸へ立つに隨ひ蠟分とけて浮ぶべし之を吸取りて冷やしたるうへ復び煮立てゝ型に入れ黄蠟と云ふをとり之を製して白蠟をとるあり

○批評

演劇改良論私考　中本一冊(六十四員)定價二十錢

此書ハ外山正一君の口述にて林茂淳君が筆記ありたるものなり演劇の事は女學に關係あると前號にも論述したれバ少しく批評すべし。此書は當今爲し得まじき程の改良をも爲させんとする亂暴の議論を不可とし只だ實際に爲し得べき件々につきて着々其意見を現したり故に劇場に花道と廻舞臺を存し役者に改良を望むべき點を指示し趣向作者についての考を白さるゝ段卓論と云ふべし然れども女役者の事に關する一段は著者が其他に於て爲し得べきことを望むに係らず玆には全く當今

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

望み得まじきとを要むると云ふべし抑も著者ハ演劇改良會なるもの丶當さに爲すべき事に付て論ぜらる丶ならん恐くハ十數年後の方向につきて述べ玉ふにはあらじ世人が此事に關するの議論も吾人がかつて本誌に愚考を述べたるも皆然なり然るヿ演劇改良會が幸に活潑の運動をなし來春早々にも改良の事に着手し先づ劇場を新築し趣向を定めて一演劇を爲さんとせバ其時舞臺に登りて著者が要する程の藝を爲すべき女役者ありや糸八の連中巧みなりとも之を團洲梅幸に配して同場に演させなバ客も役者も舞臺も皆共々に不平を鳴すべし蓋し我國當今の演劇の如く所作身振多き者には四年五年の稽古を爲たればとて居らせられませうの待女かヤット烟草盆を目八分にさヽぐる程の地位に達し得るなるべし從來の男役者を使て改良の演劇を爲させんにハ之に配して不都合なき女役者を仕立得る蓋し十年の後なるべし（但し所云る下駄洗程の所に女役者を混ずるは今日にも爲し得べし恐らくは改良會の主旨にあらじ）之を況んや著者の申さる丶如く藝者その商賣をやめて明日にも改良演劇場に登るなどの都合あらんや藝者は人情を讀むもの也役者は人情を行ふものなり世の學者が政事家として不都合なるを思ハゞ著者も自ら承知し玉ハん又著者が女役者を置けバ風俗を紊だすと心配する人に對して言ハる丶樣

若し假りに女役者が出來たる爲めに男子の品行が惡くなるとせむか若し果して然らバ男子の品行が惡くなる丈け女子の品行がよくなる理なり。なぜなれバ女役者が女形を勤むる樣になれバ今の女形ハ無用物になるべければ男役者が其れ丈け減る勘定なり。而して女役者が出來て男の品行が惡くなる譯なれバ男役者が減ずれバ女の品行ハ其れだけよくなるの理なればなりと

茲に所云る男女の中なハ男役者と女役者とを人外と見做すべきにや著者も太閤が男女混合の演劇を禁じたるの初めハ役者同士の風儀大に亂れたるゆへなりとの古傳を讀み玉ハゞ此他に議論もありしとなるべし」然れども吾人は終に女役者の出來んとを望みて著者と同感なるものなり只だ今日に實行しがたきが故に言ハざるのみ。要するに此書は此迄の演劇改良論中尤も價あるものと云ふべし

小兒健全示要　中本一冊（百卅八頁）定價四十錢

此書は岩田文吉君が歐米諸大家の説を纂めて小兒養育の心得を示し且つ婚姻上の弊害及び姙婦産婦の心得等を附錄ありたるものあり當年一月の發兌なれども此頃寄送ありて批評せよ

と申さる通讀するに子供を養ふべき乳はもとより乳母のえらび方牛乳の用ひ方までくはしくありて小供の衣物、寝室、運動など一々もらす所なし只だ附録の物足らぬやうに思はるゝと文章かたく辭にかな無きと餘りに精密なる所もありて婦女に分りがたしと思ふを憾とするのみ

○進藤直温君の女子必讀は次號に十分批評すべし

●論說

○日本の姉妹に告ぐ

万國婦人禁酒會書記　レビット

拜啓、かつて御約束申候儀に付婦人及びその事業に關する妾の卑考の二三を相認め寄送致候足下もし採るべき所ありとせバ之を貴國の言辭に譯し足下の有益なる雜誌に掲げて日本の婦人方に御示しあらんことを願候

此等の事に關する妾が第一の考は左の如し曰く神は吾等婦人を造り玉ふことを可なりとし吾等の上に神の御心を置玉ふことを可なりとし吾等の中に種々の力を賜ふことを可なりとしてかく造り玉ひし上は吾等婦人は吾等が生存することを男子に望むを要せず又神が吾等に賜ひし力を用ゆることを男子に問ふを要せずと考ふるなり吾等はたゞ神に對して責任あり故に神に對して當に爲すべきことの何たるを問ひ申すべきのみ然らバ神の御答吾等の上に直ちに降りて言すべし曰く汝等は汝等の爲に立られたる道に隨ひて宜しく善き妻善き母となるべしト蓋しこれ婦人の爲すべきことの尤も宜しく且つ尤も高尚なるものなるべし然らバかのたゞ唇に紅し顏をかほよくし暇あるときその夫を慰むる如き婦人を目して之を善き妻と云ふべき乎決して然らじ又かくの如き婦人を目して之を善き母と云ふべき乎妾は再び之を然らずと云はん

日本もし万國中に相應せる地位を取らんとせバ先づ其國の婦人を敎育せざる可らず蓋し此敎育の途すでに開けたり然れども未だ之を進み了れるにあらず向後必らずやかの大學校の門前に達せざる可らず然らずんば最大の幸福を得ずして早く倒るゝに至らんとす然れども日本の婦人たるものゝ政府が此敎育の途を開きて數多の故障を取除くを待つてのち初て其路を歩むべしとする乎妾等が切望する所のものは敢て然らず日本の婦人にしてもし基督敎が婦人を敎育したることによりて西國に數多の大且つ幸なる變化ありしことを知らバ其身を一國民と做し又人の妻とし母として自ら興奮しよく其義務をつくし

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

得べき程の愛國心を惹き起すべき也(未完)

○

男子の注意を望む(上)

湘煙女史　中嶋俊

今日以往にありては多く男ハ男とのみ女ハ女とのみ交際し來りしかども近時に至りてハ男女交際論なるもの喋〻世に提出せしより夫婦同行にて友を訪ひ友の家も夫婦出て共に面話するあど綠松紅花和して一庭文を爲すの趣きに漸次至るの色あるハ甚た欣ばしき事ともなりされとも久しく男ハ男とのみ女ハ女とのみの交際に慣れて男女交際ハ事新き故を以て互に無調法の塲合あき能ハざるなり動もすれば女ハ共席に列ると言ハ名ばかりにして矢張男ハ唯男とのみ相語るを以て女ハ宛も牀の置物と同樣數時間一言を出さず唯身の窮屈なるを感じ早く會散す可きの機を待んとをのみ願ふ等の塲合ハ恐く少からざるとならん是れハ互の無調法とハ謂ながら男子の不注意千萬と云ハさるを得す何故なれバ男子ハ今日迄見る處も多く聞く處も多く自ら知識も多く付てハ語るとも上手あらん女子ハ悉く之れに反する上に言語多けれバ卑めらるゝの弊習中に養育せられし婦人も尙多けれバ男子の混ハれる席にてハ己れより談緖を拔く如きに至りてハ數十分時間思案の後漸く胸を鎖めつゝ漸く二三語を發するを得る位のもの故爭でか男子互に相語るの間に向て一語半句を試むるを得んや夫故退屈あから傍らに默坐するの勞を取らざるを得す了解もできぬ談話を長たらしく行儀よく聽て居らねハならぬ位苦勞千萬な塲合ハあらざるあり苦勞人に非れバ苦勞ハ知れずとの諺の如く男子ハ如此の苦勞ハ餘り身に覺へあきと故得たり賢し顏にて興に乘し小六ケしき議論を爲す如きハ折角女子が漸く世に出て交際の愉快を甞めんとするに當りて忽ち此の如き不興の塲合に遭遇してハ今や將さに開けんとする交際の針路も挫折せんとするに至らん赤兒の大人に從ハるゝ如く女子も今日に於て男子の保護を得ざれバ爭でか知識を增進するを得んや大人ハ赤兒を扶くるの任ある如く自ら男子も女子を助くるの務を帶べり依て女子の無知識を說かんより寧ろ男子の不注意を說かん

●佳傳

○木村とう子の傳　(第三)

○ナイチンゲールの傳　(第三)

右二章餘白あきと不得止事あるとにより不本意あがら後號に讓る追て佳傳欄内を多くするの日あるべし

○梅香女史の傳　　月の舍　しのぶ　錄

第十六回　送る玉梓に情を示し
歸る友人に愛を見る

避暑の遊ながうなりて客舍のながめは第二の家と思はれ颯々くたる木がらしも夜の夢をあやどりて風そよぐ藤ばかまは吾にねよとてかしづくらん鹿野山中のなつげしき秋とも見へて哀れなり玆に渺茫たる入海を右手にながめて屛風のさましたる山々を左手に見下し何がし樓と風流氣の名つけてかけ離れたる家ありけりそが二間を合せて宿かれる三人の客は四十餘と見ゆる老母と二十才にたらぬ温しやかの娘の外か眉目秀雅にして面貌の活潑なる男子なり最と睦しげに見ゆるうちに肅然たる禮あり兄妹と見れバ言葉づきたゞしく母子かと見れバ餘りに遠々しされど二人とも〴〵に老母をはゝとよびて二人は互にサンとあがむ主人のつまも暫しが程はそのゆえを知らず下婢どもの夜のうはさも久しくは其當を得ざりしとなんかくてある日青山梅と名がきたる郵便を急用とあれバとて持來れる男の親切氣にとく投込みて行くを見れバ上に松本孝さまとの名付あり早く奥の御客さまへと持參するを娘はよろこびし氣に手にとりあぐれバ母もうれしげに居寄り男も反り見て之に注意する氣色なりまづ封をし開きて十餘行よみたりと見ゆるころあなやとさけびて、母樣梅サンは洋行なさる、と言かけ愕然たり、ナニ〳〵洋行とてソリヤあの西洋に居らつしやるのかへ、と早や目鏡を耳にうちかくれバ男も思はず娘と顔見合せ、差つかへなくバ聲あげてよみ玉へと云ふ

斯る次第にてブローン樣もにはかに御出立と定り候へバ私も非常にせはしく何かと仕度最中に御座候此手紙は何日比御地に着し申すべきやある人の敎には遲くも明後二十日の夕方までには御手に入るべしと申候然しおちこち御出あるきのこともありて万一御手に入るとも遲く幸にして一時御歸京被下候とも相成まじくバヽヽヽ

チヨツトあのう―何日御立かへ。マア御待なさいまし

廿三日の出發までに御目もじもいたしがたきやといろ〳〵心配いたし候思かへし候へバ五年前初て學校にまいりし節より數多ある生徒方の中に何ゆへか私をいとふかく御愛し被下私もまことの姉上と思ひて朝夕共に御物語るを何よりの樂しみといたし候は過世いかなる縁なるやとなつかしさ今日となりては更に深ふ覺へ候此年月のうち氣儘なる私をいろ〳〵に御導き被下候とまことに筆紙につくしかたき程に有がたく存じ候友人のにくしみも君が御とりなしにて滑かとなり課業の上の不平も君が御なぐさめにてすが〳〵し

Digitized by Google　　Original from CORNELL UNIVERSITY

くなり男らしき心も君がまことによりてまづ今日の人並と相成候なども皆な君が御恵とつね〴〵母にも申きけ居候然るに此度一朝に御別れ申し万里の波をへだてゝ朝夕の御めもじも出來がたき身分と相成候ハ狹き心に何如ほどうれハしく〳〵や申上ずとも君の御承知被下候ことゝ存じまゐらせあれども御存知の如く私の父は行衛知れず兄弟とて一人も無之身分なればかよハき女の身も青山の相續人としてせめてハ代々の榮のみも保ちたくまして今日の御時勢を考へ候へバかねて君とも御ものがたりいたしゝやう同胞婦人の爲め慷慨すべきこと數多御座候とゆへなか〳〵に身をへりくだるべき時ならじと存じ居候然るに幸ひブローン先生の御親切もあれバ六七年は米國ヌ留りて一通りの學藝を修め切てハ御國の爲め同胞婦人の爲め追ては吾家の爲にも出來べき程の力を盡したくと存じ候便船は毎月二三度御座候よしゆへ此後とも御見すてなく時々御教被下候やうひたすら願ひ上候君は最早定れるゝゝ君ハ最早定れるゝゝゝ彼の方（此所聲をひきくして）居ませバ父をたづねず母を獨りにして大洋を横ぎり候私とは御こゝちも上が上に御たしかなるはもとよりに候へども早く地位を定め家族をもちたしと思ひ候は女子の通弊と存じ候へバかねても御教ありしやう何卒此上とも御獨身にて御勉強の程國の爲めいのりまゐらせ尚過日私ハ洗禮をさづかりいよ〳〵信者と相成候が反り見候へバ數多のあやまちありしことを見出候もいと多く是迄の心を改め候むきも數多に候君にはいろ〳〵の御考も有之候半なれども此上は私の遺言とも御思召て何卒よく〳〵御せんさくの上一日も早う御信仰のほどくれ〴〵も祈り申候御母さまは恙なくましまし候や何卒右の次第よく〳〵御傳へ被下度候私母も此度の事いとこゝちよく承知いたしくれ自分は舊知事公の御宅へ奉公して安かに私の歸る日をまち申すべしとさだめ涙一滴すら見せ申さゞるが反て腸をさくの思にたへず候此上ともよく〳〵御氣付被下候て時々は御なぐさめの一節もあたへ玉ハらバ何より御めぐみと存じ候御母樣にも何卒けうだいと覺しめし同人を御助け被下候やうよろしく御傳へのほど

マアおやさしひとねー、ハイ〳〵承知いたしましたとも（目鏡の涙をぬぐふ）

ねがハしく候又かの方には最早御めもじは得いたし申さじわけてよろしく御傳へを願ひ上候申上たきことあか〳〵

ヨシ〳〵シア何日の發足だつけ、ハア廿三日と、スルト大方廿二日に横濱へ行るゝジヤナ、今日はコーット廿日と、日付は何

日ですへ、十八日の夜認むとあるかへ、大層遲いねー、コーツト今日は廿日と、コリヤ母樣どうしませう明日急に歸ると丁度その翌日御立じや、ドウデス皆急に歸りませうか、ソウデストモチー孝や。どうかそういたしませう。(急ぎ手を叩きて主人を召ぶ)

木更津よりの便船は毎日午后一時の出帆なれバ翌二十一日は早朝より仕度し壯健な人夫に荷を負はせ取急ぎて山を下り車を急がせて走ると云へど其の比道路尙ほけはしくて進み甚はだ遲く

木更津に着したる頃はわづかの延着にて船は今ま出帆せしと云ふ一時過る頃なりき三人の心地には佐用姫俊寛がいそべのなげきぞ初めて思ひ知られたるべし。斯れば止を得ず一日滯留してあくる日の出帆には人よりもいち早く仕度しまだ御早ふ御座いますノ注意も心にされりて夙く乘込みたり海上をだやかにして四時すぐる頃ろ東京に着したれば弱り果てたる二人を車に乘せて先づ新橋に送りかの男のみ別に辨町の梅が寄寓する家に向ひて車を飛ばせたりこは最早横濱に向ひ發足したる歟さあくともかけ違ひて新橋に來るべき時刻と思ひかくは手をわけて車を走らせたるあり然るにかの男の辨町に到れる前ハヤ出立せしと告ぐる下婢につゞき初めて涙もらしたりと見ゆる梅の母親出で來りコレハく私は特更見送りを致しませんでしたが弟が參りました、アノ孝サンは。ハイ新橋に居ります、丁度いま着しまして、ソレデハモー御立で、アノ横濱の宿は、ハアそうですか何れ明朝の御乘込でせう、ソレデハ先づ、あなた、サヅ、何れ又、となよか分らぬ言葉も取急ぐ故と見ゆれど平素凛然たる性質には少しく異樣の躰と云ふべし。門を出るや車に飛乘りて新橋に走らせ見ればシヨンボリと老母のみひとりまち居たり孝サンはと問へば恰も梅さんの停車場に御出のときにおひまして孝ハともかく御一處に横濱に參りましたおあたを御待申てとも思ひ御許あくて一人でゆくも心すまずあど思煩ひて決しませんゆへツイ私の了見でやりましたコレは何か手帋であなたに申上ると云まして孝が取敢ずしたゝめましたのですと渡せば。かの男失望の極りと見へハーツウヂシタカト言ひあがら文をひらき立ながら讀む

○柴田勝家夫婦の事

天正十一年四月秀吉北國に趣き柴田修理勝家を攻め玉ひし時勝家さしもの勇將ありしかども防戰利をうしなひて同廿三日の夜としごろ親しき家臣又あまたの女房を本城によびあつめて今生名殘の酒宴をなし夜ふけぬれば勝家夫婦ませばらく閨に入て婦人にむかひつゝそこは故内府公(信長)の御妹あれば秀吉もたすけ奉るべし明朝此城より出たまひて恙あくおはせと再三いさめけれども婦人もろともに死んとをちぎりて何くれとはかあき物語の折ふし杜鵑の聲をきゝて

さらぬたに聞ぬるほどもなつの夜の夢路をさそふ山ほとゝぎすとあるに勝家のかへし

夏の夜のゆめちはかなき跡の名を雲井にあけよ山ほとゝぎすと年山打聞に見ゆ

寄書

○美術及其要領（二）

服部甲子造

美術に五あり曰く圖畫曰く建築曰く彫刻曰く音樂曰く詩文是なり今此れ等の美術を能くし人をして或ハ快樂を覺ゑしめ或ハ嗟嘆を發せしむるハ容易の事業に非さるなり故に左に美術家か常に服膺すへき要領を述へんとす第一美術家ハ其製作に係る事物に就て先つ自己の精神に滿足愉快を感せさる可からす第二美術家たる者ハ其製作せんと欲する事物に就て確實正大公明にして偏頗なき想像觀察の力を費し之に依て發明せる有形無形一定の雛形に從て細微の差異なき樣事物を產出せしめさるへからす第三美術家ハ世の風俗を優美にし人の思想を高尙ならしむる責任あるを忘るへからす今美術品か他の快樂を引き興し人の嗜好に適せんには聽觀者をして其中に一介の忌はしく一點の嫌はしき所をも發見せしむ可からす則ち是美術家か一般の賞讃を博する手段なり而之か人の毀譽褒貶を來す者其源因鮮しとせす例へハ物躰を彫畫する者に肝要なるハ其形狀比例位置彩色等なりとす故に彫刻師にして窈窕たる淑女の石像を作るに當り先つ美女一般の肉色に不適當なる鍊化石紅の石を用ゆれハ他に如何程精神を勞するも如何計琢磨の術を施すも觀者ハ之に充分なる愉快を感せさるへし而巧妙精緻の物品ハ空く見た目が惡るしとの評を得て擯斥せられん而已斯に又詩人あり余ハ某古戰場を詠せり某豪傑の士を頌せり畫工あり余ハ某貴女を寫せり某山川の風景を畫せりと公言すれハ我々ハ其眞人實地倘しくハ我々各自の想像と相比較して之か判斷を降し巧拙善惡の評を與ふへき自由權を有する者なり故に若し此等美術の產物にして其實物に遇ひ其眞境に在るの想あらしめんか又ハ術者の想像ハ至極尤なりとの感覺を與さしめんにハ我〻ハ之を遺憾なき物と賞し否されハ不完全の品と擯くるなるへし此れ其皎明なる想像及ひ觀察力を要し而之に依て發明せる雛形に適中せさる可からさる所以なり

我々ハ風俗の善良優美を愛する者なり故に美術品にして淫猥野鄙以て風俗に妨害あらんにハ精且つ巧と雖目を閉ち耳を塞ひて見聞することを欲せさるのみならす之に美術品の名を與へさるへし一大美術家あり美少年を畫するに其容貌骨格肉色等一點の申分なく寫生造化の妙を奪ふ如しと雖之をして自弱法を行ふの圖ならしめハ觀者ハ腦に嘔吐氣の沸騰するを覺ゆるなるへし是我邦三絃の上流社會に行はれすして獨り花柳妓女の玩弄物たる理由なり此を以て世の美術家たる者ハ其美術物質の撰擇製造及ひ品格に注意を要するハ勿論斯に美術家及ひ其術品審判者の爲に四大動かす可からさる元則ありて之を外形の美麗物質の完全風俗の優美見聞の愉快と爲す此四者相併行して互に一分の輕重なきを完全無欠なる美術の物產と云ふ然れとも未た最上非凡の美術品と稱する能はさるなり所謂最上非凡の美術品ハ其美術品たるに決して欠く可からさる四者完備の他に尙ほ測量し易からさる内部の經營ありて興味の兼て充分なるを云ふ豪傑俊士の像ハ其豪傑俊士たる外形の他に尙ほ自ら高尙有爲の志操を窺ふへく悲壯慷慨の詩ハ其悲壯慷慨たるを表する言語の外に尙ほ無量言外に溢るゝの意味を含む者是なり佛像を作て其靈魂を入れずとハ古來の諺にして亦之を言ふなるべし（畢）

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

●新報

○束髮　去廿日の報知新聞には當今束髮にしたるものが帽を戴かざるを不釣合とし寧ろ一種の簪叉は櫛樣のものにて好恰よろしき頭飾を案じ出し西洋人に笑らはるゝ勿れと述べたり吾人は常に束髮に帽を冠るべきを主張したるが此は只だ外形の爲にあらず結髮したる男子が散髮となるとも尙ほ寒暑をはなはだしく感ずるものあれは從來油ビン付にて板の如く固めたる上に四五斤の綿を結晶させたりと見ゆる大髷を以て覆ひたる頭を急に束髮となして空氣の流通を自由にするには衛生上是非とも帽を戴かざれバ不可なる故なり去年夏一時に盛んとなれるが冬に至りて俄然衰滅し此夏となりて復た再興したるにより束髮せる人の寒を感ずるのつよきを知るべし然るに啻に寒氣のみならず夏日の炎天も同じくきびしう感ずるものなれバ夏冬ともに帽を戴くを可とすべし横濱の生徒方は此夏帽子を用ひ玉へりこの冬も亦率先してこれを戴き玉ふやう希ふ西洋にて衛生に注意せる女は束髮の束ねを毎日同樣の點に安置し毫も變ぜざるやうにするとぞこれ頭腦は變化せる寒暑を感ずると尤もつよきゆへ也今止を得ずして結髮を束髮に改めたらば此上帽をいたゞきてあつく頭腦を保護するに至らんと大切也彼たゞ外形の爲にする如きは吾人の知らざる所也

○名古屋の女風　尾州名古屋の女風は何人も歎息せざるなし我國にて娼妓を尤多く出す場所は越後と名古屋なり名古屋の娘は淫賣して小遣錢をとり自ら男の愛をひきて早く夫を定るを名譽とす都の中央に宏壯なる妓樓ありて全都の女子みな風を之に學ぶと云ふ故に此風を改る爲めには先づ妓樓を除去し次に高尙なる女學校を建ると當今の要務ならん然るにかつて妓樓の撤去を縣會ヰ發議したる者啻に其議を主張するの勇に乏しかりしに非ず人ありて其案文の妓樓の上に遺たるを拾ひしと云ひ又これまで在りたる女學校をも遂に廢するに至れりと云ふかさね〱浩歎すべきとあり吾人は此等の景况を慨し率先改良の事に盡力あるべき義者の其地に起らんとを謹禱し止まざるもの也

○淫書　近年衛生生理等の學術に托して種々の淫書を發行するものあり吾人の尤も歎息する所なりしが政府は追々精密に之を取調べらるゝやうなりしは賀すべきと也すでにかつて由己社より發行したる男女○○得失問答と云へる書籍を京橋區鎗屋町の某が反刻發兌せしを去十五日内務省より其反刻を差止められしとあり

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○日本婚姻の弊害　前號に少々批評したる大島盛造君の同書ハ何か差支へあるやの由にて廢板の義を願出されたる趣何故にや惜むべきとなり

○影山エイ女　國事犯嫌疑にて大坂の獄裏にある同女ハ連りに洋書を勉强し傍ら傳告係をつとめ時々囚徒を教訓し居らるゝ由(九月八日海南新聞)

○離婚　箕作議官が離婚に關するの意見として改進新聞の記する所によれバ先づ夫婦の双方の爲め又ハ之より生じたる子の爲め又ハ父母祖父母の爲め離婚する等凡そ離婚を爲すべきの原因期限を法律に明記し此の範圍外に於ては一切離婚を許さずと云ふにありて此議論尤も勢力を得多分ハ之に決すべきやの風聞ありとぞ吾人ハ此報の漠然たるに憾む所あれども凡そ離婚を夫婦外の人の爲にする如きとは決して許すまじきものと信じ强く之を主張するもの也

○黴毒　去十六日本郷黴毒病院にての調によれバ目下各遊廓の娼妓中わばいが惡くて入院中の者はメて百五十七人其内吉原が六十一人根津四十八品川廿二人新宿九人千住二十一人板橋四人ありと去十七日の改進新聞に見ゆ痛歎すべきとなり

○女學校　神田の女子職業學校は去十六日開校式を行へり。明治女學校の教員人見ギン子仙台に趣き青木マサ子之に代り同鬼頭マス子は小松宮令孃の保姆となる。櫻井女學校の皿城キン子はツルー女教師と共に八王子に趣き同所の女學校に盡力さる。横濱フェリス女學校の教員稲垣トヨ子腦病に付坂寄ヤス子代らる

附言。女學校に關する報告は續々惠報あらんやう各校の幹事諸氏に希望す

○中村女學校　福島縣宇多郡中村に女學校を新設し東京女子師範學校の卒業生村島チカ子教員となる

○女の手仕事　近頃府下芝區邊にてハ女が絹のハンカチーフの縫取りを手內職と爲す者多き由なるがきく所によれバ伊豆相摸地方の漁家又ハ小田原梅澤最寄の農家等にても此節ハ同品の縫取盛んに行ハるゝよし同品ハ多く米國へ輸出するものにして一枚の縫取賃は三錢より四錢五厘位に至り隨分視力を勞する仕事なれども縫針の達者なるものハ一日に五枚より六枚を縫上げ下手な者にして二三枚は縫い得るよしありと去十四日の時事新報に見ゆ余が箱根に行る途中にて所々にて之を爲すを見たり又上州地方にても多く之を爲すときけり

○福岡雜報　先頃ろ高等師範學校の川上氏が出張して該校入

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

學者撿査の節福岡縣の特選を以て應試したる福岡區覇臺北校訓導荻野ヒサ同南校訓導田中モトの二女子は孰れも試驗合格の旨にて來年三月上京あるよし右二子はかねて女子教育の事に熱心しかの福岡婦人協會を興し且つ其主事となりて今日まで諸事を幹旋し居らるゝよし。又福岡博多等にては近時洋服大に流行するにつき婦女の職工數十名を雇入れたれバ追々婦女の職工あまたを得べしとぞ

○西京雜報　下京明倫校にて先ごろ開設せし婦人唱歌會總代辻スミ平田ウメの兩女ハ本會創設に際し夙に勵精研窮の趣其筋へ聞え教育上其効尠からずとて特に手當金廿圓を京都府より下賜ありたる由。府下女子師範學校の生徒ハ七十名なるよし併し近々改革になりて五十名に減ぜらるゝ由

○女子手藝品共進會　新潟縣官の妻女達にハ近頃種々の編物を勉強さるゝよしにて不日女子手藝品共進會なるものを新潟港の白山公園内なる偕樂館に開かんとの用意中なりと云ふ其方法ハ重もに東京の婦人慈善會に倣ふ見込なりとか

○レビット夫人　は去十六日西京四條南の劇場にて終末の大演說會を開かれて十七日神戸に至り同日より廿三日迄一週間所々にて禁酒演說をなさるゝよし

廣告

正四位福羽美靜公題歌　從五位實吉安純先生閲　蒲生重章先生序　進藤直温君纂輯　傍訓挿畫

女子必讀

三卷合本洋書製　紙數三百四ページ　定價金五十七錢　郵税金十錢

内訓、作法、治家、待客、育兒、飲食、庖廚、衣服、住居、睡眠、運動、浴湯、豫防、治病、看病、通計十五篇七十三節四百八十二章此書は女子の讀み易く解し易きを要するため總て文字に平假名を施し言また平易なりと雖も其旨の深く且高きは編者の尤も焦慮せらるゝ所なり故に上は公侯より下は輿儓に至るの内室老嫗小娘に論なく凡て女子たる者の必ず讀むべき書なるのみならず男子も見て以て益を受ることもまた疑を容れざるべし實に各家一本を備ふべき最良書なりと云爾

出版人　神田區裏神保町三番地寄留　進藤直温

發兌所　東京銀座四丁目　博聞社　通三丁目　丸善商社書店
東京馬喰町二丁目　島村利助　京橋南傳馬町　吉川半七
日本橋西河岸町　須原鐵二　神田淡路町　畿々堂

○通學寄宿　女子學藝教授（十九年九月教則改正）

教科　○裁縫○讀書○習字○作文○筭術○英學○和歌○琴箏○點茶○修身行儀

右一科を專學するも數科を兼修するも隨意とす專ら其適する所に從ひ實用の業を速成せしむへし

東京神田區中猿樂町十七番地と二十四號　松香舘水原

今般左の處へ裁縫教授所を假設し從來の弊習を一洗するを目的とし敬愛を主とし專ら和洋の裁縫編物押繪英語の初歩を教授す其課業に依り外國婦人をも聘し及び學士に依賴して家政要領を講義す有志貴婦人令孃陸續來習あらんことを企望す但便宜を計り仕立物洗張編物等廉價を以て御依賴に應す尚二錢の郵券御送附あらバ速に細則を呈すべし

明治十九年九月

東京麻布仲の町二十番地長田方

東京府免許高等裁縫學校裁縫教師　水野八重子

元岡山縣師範學校裁縫教師　芹川咲子

演劇改良會員　外山正一君述

演劇改良論私考

全一冊　定價金廿錢　郵稅六錢

東京日本橋通三丁目

丸善書店

教育時論大改良ノ廣告

每月三回五ノ日發刊

（郵稅共一部金六錢十部前金五十八錢廿部前金壹圓十錢）

弊社敎育時論ノ儀近來頻ニ改良ヲ加ヘ來リ候處頗ル江湖ノ望ニ副ヒ購讀者日ニ增加仕候ニ就キ今般ハ更ニ一層ノ改良ヲ加ヘ記者ヲ增シ紙數ヲ增シ廣ク內外學士ニ交際ヲ結ビテ其贊助ヲ受クルコトニ定メ歐米刊行ノ敎育書敎育雜誌等普ク購覽シテ遺漏ナキヲ期シ候間何卒敎育ニ御篤志ノ方々御購讀ノ程伏テ奉願上候[illegible]左ニ記載ノ目次概略相認メ御參覽ニ供シ候

●社說[illegible]私熟議ヲ盡シテ之ヲ出ス最モ世論ヲ動カシ學政ヲ拘[illegible]制主義敎育ヲ擴張センコトヲ要ス●論說●廣ク敎育ニ[illegible]諸家ノ論說ヲ發錄シ名論卓說ヲ喚起シ世ノ敎育ヲ進步[illegible]ンコトヲ要ス●興論一斑●廣ク新聞雜誌ヲ涉獵シ其敎育家ヲ益スルニ足ルモノニ就キ要點ヲ摘錄シ最モ少キ時間ヲ以テ最モ多數ノ興論ヲ知ラシメンコトヲ要ス●學術●新奇有益ノ學說ヲ揭ゲ或ハ材料ヲ歐米ノ圖書雜誌ニ求メ或ハ力ヲ內國ノ諸學士ニ借リ最モ讀者ヲシテ敎育上ニ必要ナル學術ノ要義ニ通セシメンコトヲ要ス●學說一斑●內外ノ閱書雜誌ニ就キ一時ノ學者ガ如何ナル學說ヲ主張スルヤヲ撿シ其要點ヲ揭グ●雜記●かあぶみヲ載セ英和對譯文ヲ揭ゲ試驗ヲ受クル者ノ心得トナルベキ諸件ヲ記シ新體ノ詩（音譜ヲ付スルコトアリ）ヲ載セ其他珍ラシキ事面白キ事件社員ノ出セル雜說等ヲ記シ實益ト快樂トヲ併セ致サンコトヲ要ス●問答●或ハ質問ヲ出シ或ハ答案ヲ揭ゲ最モ宿疑ヲ釋キ思慮ヲ練ランコトヲ要ス●傳記●肖像ヲ挿ミテ內外名家ノ傳ヲ載ス●論題●敎育上切要ナル論題ヲ提出シ世ノ敎育家ノ意見ヲ求ム●內外雜纂●敎育家ノ知ラザルベカラザル新事件新要報ヲ內外ニ探リ來テ之ヲ揭グ●官報抄錄●勅令省令等ノ敎育家ニ要用ナル件ヲ揭グ●見本御望ノ方々ハ郵便切手三錢御封入被下候ハヾ何時ニテモ進呈可仕候

東京下谷區練塀町十四番地

開發社

中外兵談

每月二回發行●一冊代金拾錢郵稅壹錢●十冊代價郵稅共金壹圓

●第三號目錄●磨劍裝藥ノ時機ヲ知ラザル乎●武功ノ價值●橋梁ニ哨處ノ必要●歐米兵家金誠●魚形水雷ノ猛力幷圖●サブリマンボートの事●山海關の圖幷●其說明●砲熕の沿革●淸國堅艦の兵裝●支那四水師の艦船表●淸佛談判始末●淸正の奇說●我國の大臣ハ小兒より劣る●大久保彥左衞門の脅係ハ祖父の風あり●謙信ハ夜叉か●武士の相撲●詩歌八首●濟洲ハ羅貫スベキ論●露國新聞無禮の妄言●雜報數件●官報數件

東京本鄕弓町一丁目廿番地

中外兵談社

基督教新聞

第百六十四號九月十五日發兌

●時機を見て働くべし○傳道者ハ無妻なるを可とす○敎報○雜錄○佛者の虛言も方便說○万事皆可○歐洲諸國宗敎改革の顚末○英文社說及敎報

○一部三錢郵稅一錢每週一回發行

東京京橋區瀧山町六番地

警醒社

瓜生寅先生講述

通信教授

女子家政學

八月始業

右講義錄ハ瓜生先生該博ナル學識ヲ以テ米國ノ婦人かたりいれ、びいちえる氏著ス所ノでめすてつくさいえんすヲ[illegible]撰シ其躰例ニ倣ヒ本邦ノ風俗人情ヲ洞察シ邦俗ニ[illegible]順次出板配布述セラレタルモノニシテ左ニ記スル目錄ス志アル婦女子ハ續々御申込アレ

●女子家政學目錄

總論　女子家政を司る職掌ハ男子の營業職掌に劣ることなく家の爲國の爲に大切なる事を論す

第一章　家族の事　主婦は一家の總理大臣にして家事大小となく自ら手を下し且强者は己を棄てヽ弱者を扶くるを以て家族の家族たる本分主義となる事等を論す

第二章　住家の事　間取を吟味し勞力時間費用を省て健康動作經濟の便利を計る事等を論す

第三章　室內は健康を保つを目的とする事　空氣の流通人間に必要なる事及肺臟の成立等を論す

第四章　空氣流通の道理を論す
第五章　煖爐火爐烟突の事　各其得失利害を論す
第六章　屋内の粧飾の事　家屋を美麗にするは教育に必用ある事及家具器什の得失　庭園等の事を論す
第七章　健康に氣を附る事　身躰の成立躰内諸部の官能機動等を論す
第八章　運動の事　筋肉の成立等を論す
第九章　健康に益ある食物の事　食物の成立利害胃腑の功用消化滋養等の事を論す
第十章　健康に益ある飲料の事　飲料の利害功用等を論す
第十一章　屋内身躰等清潔法の事　人間の健康快樂は清潔法の如何に關る事及皮膚其他の成立等を論す
第十二章　衣服の事　骨格の成立及衣服の利害を論ず
第十三章　食物調理の事
第十四章　早起の事　其利益及睡眠の時間等を論ず
第十五章　家内の言語作法の事
第十六章　家を治むるには温和を主とする事
第十七章　諸事規律順序を習慣とすべき事
第十八章　慈悲の事
第十　時間と費用の儉約の事
第二　精神の健康の事　身躰と精神との關係精神の官能の原因等を論す
第二十　乳兒扱方の事　其取扱方の利害得失兒と母の食料衣服入浴空氣の變化生歯の危害諸病等を論ず
第二十二章　子供養育方の事
第二十三章　家内の遊戯世間の義理の事
第二十四章　老人扱方の事
第二十五章　婢僕扱方の事
第二十六章　病人扱方の事
第二十七章　損傷打撲及消毒藥の事
第二十八章　裁縫及補綴の事
第二十九章　室内を温め空氣を通ずる事
第三十章　愚蒙なる者家なき者孤獨の者不良なる者扱方の事

東京下谷區練塀町
十七番地開發社内

通信講學會

定價

一册。五錢　郵税。一錢		(但府内無郵税)
十册。八十四錢郵税。十錢		(同前)
廿册。九十錢　郵税。廿錢		(同前)
卅册。一圓卅錢郵税。卅錢		(同前)
一ヶ月分女學雜誌代價	十五錢	府外へ十八錢
二ヶ月分同	三十錢	府外へ三十六錢
三ヶ月分同	四十五錢	府外へ五十四錢
半年分同	八十八錢	府外へ一圓六錢
一年分同	一圓六十錢	府外へ一圓九十六錢

廣告

一行	一回	前金拾錢
同	三回以上	(廿五分引)
同	六回以上	

十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道徳なる事物の廣告は謝絶す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評す

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町（大賣捌）嚴々堂

東京神田區雉子町　國々社支店
同　神田區佐柄木町　東海堂
同　日本橋區新葭町　良明堂
同　日本橋區馬喰町二丁目　自由堂
同　京橋區木挽町壹丁目　萬字堂
同　本郷區元富士町　盛春堂
同　本郷區春木町二丁目　解明堂
同　牛込區肴町　沿神堂
大坂　備後町四丁目　岡島支店
伊勢國松坂白粉町　家里初枝

東京芝西久保櫻川町（支局）萬春堂

發行所

東京本郷弓町壹丁目廿番地
本局　女學雜誌社

持主兼編輯人　嚴本善治
印刷人　森田豐

WOMEN'S MAGAZINE.

"JOGAKU ZASSHI."

Price sen. By post yen 1.06 six months, yen .96 per annum, in advance.

Edited and published by Y. H. Iwamoto, at Jogaku-Zasshi-sha, No. 20 Yumichô, Hongo, Tôkyô.

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

明治十九年九月十五日發行

驛遞局認可

第七章　健康に氣を附る事　身躰の成立躰内諸部の官能機［…］動等を論す
第八章　運動の事　筋肉の成立等を論す
第九章　健康に益ある食物の事　食物の成立利害胃腑の功用消化滋養等の事を論す
第十章　健康に益ある飲料の事　飲料の利害功用等を論す
第十一章　屋内身躰等淸潔法の事　人間の健康快樂は淸潔法の如何に關る事及皮膚其他の成立等を論す
第十二章　衣服の事　骨格の成立及衣服の利害を論ず
第十三章　食物調理の事
第十四章　早起の事　其利益及睡眠の時間等を論ず
第十五章　家内の言語作法の事
第十六章　家を治むるには温和を主とする事
第十七章　諸事規律順序を習慣とすべき事
第十八章　慈悲の事
第十［九章］　時間と費用の儉約の事
第二［十章］　精神の健康の事　身躰と精神との關係精神の官能の原因等を論す
第二十［一章］　乳兒扱方の事　其取扱方の利害得失兒と母の食料衣服入浴空氣の變化生齒の危害諸病等を論ず
第二十二章　小供養育方の事
第二十三章　家内の遊戲世間の義理の事
第二十四章　老人扱方の事
第二十五章　婢僕扱方の事
第二十六章　病人扱方の事
第二十七章　損傷打撲及消毒藥の事
第二十八章　裁縫及補綴の事
第二十九章　室内を温め空氣を通ずる事
第三十章　愚蒙なる者家なき者孤獨の者不良なる者扱方の事

東京下谷區練塀町十八番地開發社内
通信講學會

價

一ヶ月分女學雜誌代價十五錢　府外へ十八錢
二ヶ月分同　三十錢　府外へ三十六錢
三ヶ月分同　四十五錢　府外へ五十四錢
半年分同　八十八錢　府外へ一圓六錢
一年分同　一圓六十錢　府外へ一圓九十六錢
卌册。一圓卌錢郵税。卌錢（同前）

廣告

一行　一回　前金拾錢（廿五字詰）
同　三回以上　一割引
同　六回以上　二割引
十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絶す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評す

WOMEN'S MAGAZINE.
"JOGAKU ZASSHI."
Price .sen. By post yen 1.06 six m[onths], yen .96 per annum, in advance.
Edited and published by Y. H. Iwam[oto] at Jogaku-Zasshi-sha, No. 20 Yumi[cho] Hong, Tōkyō.

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町（大賣捌）巖々堂
東京神田區雉子町　團々社支店
同神田區佐柄木町　東海堂
同日本橋區新葭町　眞明堂
同日本橋區馬喰町二丁目　自由堂
同京橋區木挽町壹丁目　萬字堂
同本郷區元富士町　盛春堂
同本郷區春木町二丁目　解明堂
同牛込區肴町　治神堂
大坂備後町四丁目　岡島支店
伊勢國松坂白粉町　家里初枝
東京芝西久保櫻川町（支局）萬春堂

發行所　本局　東京本郷弓町壹丁目廿番地　女學雜誌社
持主兼編輯人　巖本善治
印刷人　森田豐

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY